

やざわ 矢沢たかお

自由民主党 川崎市議会議員

NEWS

みなさん、こんにちは。川崎市議会議員（宮前区選出）の矢沢孝雄です。

第49回衆議院選挙が行われ、政権選択がなされました。同日投開票となった川崎市長選挙では福田紀彦候補が再選し、引き続き、国と連携した新型コロナ対策、経済対策等を進めていくこととなります。また、各選挙と同時に実施された幸区市議補欠選挙では、自民党公認の加藤孝明候補が当選し、川崎市議会議員団に加わる事となりました。今回は、10月中旬に閉会となった第3回定例会の内容について報告致します。

特集

川崎北部・南部斎苑に「使用済みロウソク回収箱」を設置！

川崎葬祭具協同組合より川崎北部・南部斎苑への「使用済みロウソク回収箱」の設置に関するご提案を受け、川崎市に相談を実施。本年9月24日に設置許可があり、川崎南部斎苑・北部斎苑に「使用済みロウソク回収箱」が設置されました。

これまで「使用済みロウソク」は活用されず、そのまま廃棄されていました。他方、使用済みロウソクを活用した商品開発に繋げている自治体もあり、好循環を作り上げています。

茨城県取手市藤代の市立障害者福祉センターふじしろでは、障害者就労支援の一環として、使用済みロウソクを材料とした「着火剤」を手作業で製造、商品化しています。

同施設の着火剤は、ろうそくと木材のみを材料とし、「自然素材の着火剤」としてキャンプを楽しむ人やまきストーブを使用する人らから好評を得ていましたが、材料となるロウソクは寄付に頼るしかないとから思うようには集まらず、販売店からの注文に対応できない状態がありました。

それを知った川崎葬祭具協同組合（斎藤隆理事長）が協力を決め、当方を含めた顧問議員に相談。川崎市の理解を得て、この度の「使用済みロウソク回収箱」の設置に至りました。北部斎苑・南部斎苑ご利用の際には、「回収箱」をご活用頂ければ幸いです。



将来的には取手市への供給のみならず、市内障害者就労施設等とのマッチングを含め、活用を広げられると考えています。

環境保全と社会福祉の両面から、一大消費地である本市における好循環に繋がられる取り組みを同組合と協力して進めて参ります。



設置された「使用済みロウソク回収箱」左から斎藤議員、原議員、矢沢議員

障害者就労施設にて
集めた使用済みロウソクを活用



大人気!! 自然素材の着火剤に

令和4年4月、川崎市立看護大学、開学へ！

本市では、社会の保健医療の向上に寄与する有能な人材の育成を目的に、平成7年4月に川崎市立看護短期大学を開学し、今まで1,839人の卒業生を世に送り出してきました。時代が進み、医療の高度化やニーズが多様化する中、そうした社会に対応するべく、四年制大学の設置を検討してきました。

そして今定例会に、「川崎市立看護大学条例」、「川崎市立看護大学奨学金条例」、「川崎市看護師等就学資金貸与条例の改正」が議案として提出され、全会一致をもって可決し、来年4月に開学することが決定致しました。

本市として短大から四年制大学へと転換することについて、国の求める看護教育の充実に応えるには三年制の短大ではカリキュラムが過密であること、学生の四年制大学志向の高まりもあり、看護師不足が社会課題となっている現況において、より有為な人材の育成に資すると考えられています。また、本市では地域包括ケアシステムを推進しており、新大学では、「地域包括ケアシステムに資する人材を養成し、地域社会における健康と福祉の向上に貢献することを目指す」とし、地域に根差した人材を輩出し、人々が住み慣れた地で自分らしい生活を送れるよう同システムの推進者として活躍することが期待されます。

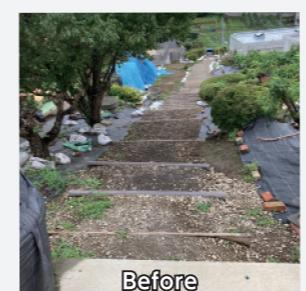


Photo:セキュリタウン付近
Vol 23
2021August
~
2021November
討議資料

日々、どういった活動をしているの?
矢沢たかおの

日々の活動

活動の一部を
写真で紹介します
令和3年2021
8月 ▶ 11月



Before



After

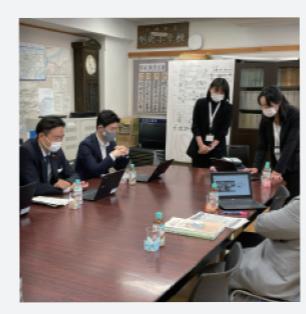
地域の陳情相談



土砂流出防止と手すりが設置され通行しやすい道に



新型コロナワクチン接種体制強化の緊急要望書を市長に提出



GIGAスクール構想モデル校となっている旭町小学校を視察



洗足学園小学校 ICT 教育視察



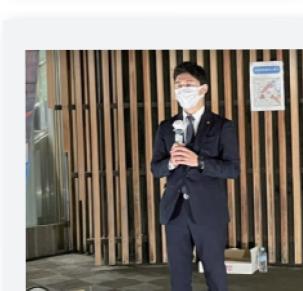
市内集団接種会場の視察



教育機関等へのワクチン接種を優先する緊急要望書を市長に提出



第3回定例会における自民党代表質問を担当



駅頭活動の様子

しっかり聴く市民相談所

市民相談お気軽にお問い合わせください！

矢沢たかお事務所・・・神奈川県川崎市宮前区初山1-20-12

電話 044-976-2727

FAX 044-976-8686

mail mail@yazawa-t.info

矢沢たかお 検索
<https://www.yazawa-t.jp/>
[twitter](#) [facebook](#)



主な議会スケジュール

令和3年
9月
・第3回定例会及
決算審査特別委員会
(9月2日~)
・常任委員会

令和3年
10月
・常任委員会
・各級選挙
(衆院選・市長選・幸区市議補選)

令和3年
11月
・第4回定例会
(11月26日~)
・常任委員会

令和3年
12月
・第4回定例会
(~12月21日)
・常任委員会

1月
・常任委員会

令和4年
2月
・第1回定例会

第3回川崎市議会 定例会のご報告



令和2年度決算審査を含む令和3年川崎市議会第3回定例会が、9月2日から10月8日の期間で行われました。

今議会では、新型コロナウイルス変異株感染拡大に伴うワクチン接種の推進、医療提供体制の強化、学校・保育園・幼稚園等の運営、デジタル化を通じた社会変容への対応など、「新型コロナ対策」と、「令和2年度川崎市一般会計・特別会計決算」を中心としながらも、「川崎市立看護短期大学の4年制大学への移行」、「JR南武線連続立体交差事業の推進（開かずの踏切対策）」といった大型事業を含め、議案44件が議題となりました。

また、3期目の市長選挙を臨むにあたり、市政4年間の総括を福田市長に伺いました。

市長は、「公約として掲げた50の政策については、総合計画第2期実施計画に位置付け推進してきた結果、一定の成果を示すことができたと考えている。一方で、令和元年東日本台風による被害、新型コロナ対策など、困難に直面している。脱炭素や行政のデジタル化など、新時代に対応した取り組みを進め、将来を見据えた中長期的な視点に立ったまちづくりを進めていきたい」と答弁しました。

自民党川崎市議会議員団は9月13日、提出された諸議案並びに市政一般について代表質問を実施致しました。（質問者：矢沢孝雄副団長・宮前区選出）



上：橋本 勝 議長
下：矢沢 孝雄 副団長

新型コロナ対策（補正予算）



今議会では、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施策の充実」を目的に、当初予算から約72億円の追加補正予算を可決しました。主な内容をご報告致します。

● 新型コロナウイルス感染症対策事業及び、ワクチン接種事業の強化（37.2億円）

感染症の拡大を踏まえ、治療費及びPCR検査費用の公費負担分の増額及びワクチン接種体制を継続・強化。

● 生活困窮者自立支援事業（8.0億円）

総合支援資金の貸付が利用できなくなった世帯に対し、就労による自立や生活保護の受給に向け支援金を支給。

● GIGAスクール構想推進事業及び、義務教育施設整備事業（6.9億円）

GIGA端末と連携し授業等に活用している普通教室の大型テレビの更新や、諸室のネットワーク環境の整備。

● 特定不妊治療費助成事業（6.6億円）

申請件数の増加や助成単価の改定に伴い、所要額を増額。

● 新生児応援事業及び、川崎じもと応援券推進事業（3.4億円）

令和3年1月1日から12月31日までに出生した新生児を養育している方に対して、「川崎じもと応援券」を支給。また、川崎じもと応援券の利用期間を令和4年3月31日まで延長。

その他、急速な社会変容への対応が

求められる中、デジタル化への対応として、シニア向けスマホ教室やICTツール活用講座等の拡充、高齢者施設へのネットワーク環境整備等も含まれています。



緊急事態宣言下、オンライン授業を受けている生徒も参加し授業を行なっている様子 [算数]



シニア向けスマホ教室

令和2年度一般会計決算のポイント

今議会は、令和2年度決算審査を含む定例会となっております。決算を見る事で川崎市の財政状況を把握する事ができます。今議会での我が会派質問のやり取りも含め、主な内容をご報告致します。

● 令和2年度決算のポイント

○歳入規模は9,597億円となり、過去最大（前年度7,397億円）

- 最大の増加要因は国庫支出金（+1,781億円）※国の新型コロナ臨時交付金収入が主

○歳出規模は9,562億円となり、過去最大（前年度7,367億円）

- 最大の増加要因は健康福祉費（+1,627億円）※国の新型コロナ関係交付金支出が主

○実質収支は1億8,400万円（前年度1億8,300万円）

- 財政調整基金は、65億円（前年度63億円）

○市税収入は過去最高の3,654億円（前年度3,619億円）

- 市税において新型コロナウイルス感染症の影響を受けるのは、令和3年度。

○扶助費は2,073億円となり、引き続き増大（前年度1,971億円）

○減災基金からの新規借入れは無し（借入累計527億円）

- 当初予算では125億円の新規借入を想定していたが、予算に対して市税が増収となったことに加え、医療機関への受診機会の減、感染症拡大の影響で、全般的に歳出が減少したこと等により、最終的には新規借入を実施しなかった。

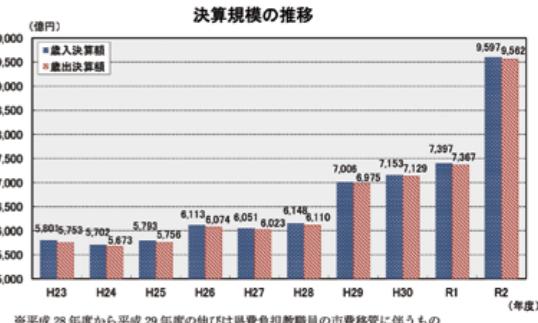


図1. 決算規模の推移

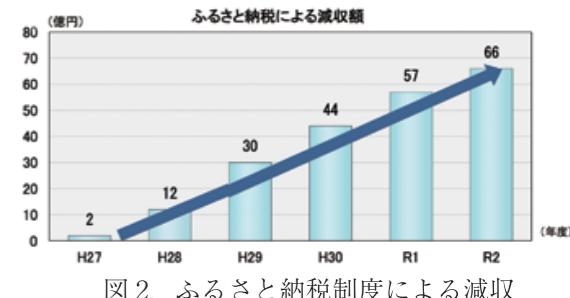


図2. ふるさと納税制度による減収

● 令和2年度決算に対する市長の見解について

市長からは、「歳入の根幹である市税が予算に対して増となる一方で、歳出面では、医療費助成制度や学校管理費などにおいて感染症の影響による減があったことなどから、結果として減債基金からの新規借入を行わなかった。一方で、感染症の影響による景気の落込みに加えて、新たに生じた行政需要の増など、厳しい財政環境が続く事が見込まれる。こうした厳しい環境において、市民生活に不可欠な行政サービスの安定的な提供など、持続可能な行財政基盤の構築に向けて、緊張感をもって運営を行なっていきたい。」との答弁がありました。

● 本市財政の根幹である市税収入の内訳と中長期収支見通しについて

本市の市税収入は、個人市民税（1,766億円）と固定資産税（1,278億円）が全体83.3%を占めており、法人市民税（155億円）は約4.3%となっています。本市財政は、人口動態に大きく影響を受けるのが現状となっている事を踏まえ、人口ピークを迎える2030年以降の中長期的な収支見通しを把握し、政策判断・事業推進に活かしていくこと必要性について、市長に見解を伺いました。

市長からは、中長期的な視点を持った行財政運営の重要性に理解を示しつつ、「一方で、10年を超える長期の推計を行う場合には、長期の経済見通しなど基礎データが不可欠なものであり、国の経済見通しは10年程度の試算となっていること等を論拠に、10年先の財政運営を見据えた収支見通しの策定を進めている」との答弁がありました。

● ふるさと納税による市税等流出の現状について

ふるさと納税の影響により、市税等の減収額は年々拡大しており、令和2年度には、66億円となり、過去最大の減収額となつたことが決算で報告されました。年間約10億円以上の推移で減収傾向が進んでいる状況です。（図2）

また、令和3年度決算における減収額は、80億以上にも及ぶと言われています。一方で、令和3年度は普通交付税交付団体となることで、ふるさと納税減収額に対して、財源不足分の一部が交付金等で補填されることから、影響等を注視していく必要があります。

矢沢たかお プロフィール

- 昭和60年8月28日、川崎市宮前区初山に生まれる（36歳）
- 川崎市立菅生小学校 卒業・川崎市立菅生中学校 卒業
- 法政大学第二高等学校 卒業・法政大学情報科学部 卒業
- 平成20年 伊藤忠テクノソリューションズ（株）入社
- 平成26年 政治活動に専念するため同社を退社・平成27年川崎市議会議員（宮前区）初当選・平成31年二期目当選
- 令和3年度 文教委員会 委員長
- 趣味：剣道四段（五段に向け修行中）、空手二段、書道毛筆三段、硬筆二段